

## 投稿規定

(1990年12月11日実施/2004.2.1改/2006.6改/2006.11改/2007.5改/2007.8改/2009.2改)

### 1. 投稿者

第一著者が投稿時に協会員であることが必要です。(投稿時入会でも可)

### 2. 原稿の種類と内容

#### 2.1 研究論文

リハビリテーション工学に関連する分野で、学術上および技術上の価値がある新しい成果を記述した原著論文。

#### 2.2 ショートペーパー

リハビリテーション工学に関連する分野で、新規性があり、学術上および技術上早期に発表する価値がある原著論文。

#### 2.3 研究報告

リハビリテーション工学に関連する分野で、有用な成果を記述した原著論文。

#### 2.4 技術報告

リハビリテーション工学に関連する機器開発や計測手法等についての技術的な報告。

#### 2.5 資料

リハビリテーション工学に関連する調査報告や事例報告等の資料。

#### 2.6 解説

リハビリテーション工学に関連する研究・開発動向や将来の展望等、会員に知らせる意義のある論文。

#### 2.7 意見

リハビリテーション工学に関する意見。

#### 2.8 報告

リハビリテーション工学に関連する学会・研究会・展示会・会議等の報告。

#### 2.9 情報

リハビリテーション工学に関する刊行物、学会・研究会・展示会開催などの情報。

#### 2.10 特集

本誌編集委員会にて企画した特集に対する寄稿。

#### 2.11 連載

本誌編集委員会にて企画した連載に対する寄稿。

#### 2.12 その他

講座、施設紹介など。

### 3. 著作権

会員の権利保護のため、著作権のうち複製権および公衆送信権は本協会に属するものとします。

ただし、著作権者が自ら複製または公衆送信を行う場合には、出版日から90日後において、本誌

に掲載している旨を明記の上自由に行うことは差し支えありません。

### 4. 投稿原稿の採否

投稿原稿の採否は査読規定に基づき本誌編集委員会にて決定します。また、場合によっては原稿の種類の変更をお願いすることがあります。

### 5. 原稿の書き方

#### 5.1 原稿の形式

##### a. 使用ソフト

マイクロソフトワードをご使用ください。

##### b. 本文のフォント

本文は明朝体、見出しや強調したい箇所にはゴシックを推奨します。MS明朝/MSゴシックなどなるべく一般的に使用されているフォントを使用してください。タイトルは14ポイント、所属・見出しと本文は10.5ポイントとして下さい。

##### c. 本文のページ設定

A4 2段組 1行23字(字送り10P) 1段42行(行送り16.7P)として下さい。余白は上25mm、下24mm、左20mm、右18mmずつとして下さい。

##### d. 文字数

テキストと図表を別々にご送付いただく場合は、23字×42行×2段×2ページ=3864字から、タイトル分を引いたものが本文文字数となります。タイトルの長さや共著者の数などによって変わりますが、平均すると400字程度で換算ください。図表は約300字程度に換算して下さい。

##### e. 写真と図表

ナンバーと説明文を必ずつけて下さい。このフォントは本文見出しと同じMSゴシックとし、10ポイントとして下さい。白黒(グレースケール)に変えて、原稿に掲載して下さい。カラー写真を白黒に変えると、コントラストが不明瞭になる場合があります。白黒にしたものを一度プリントアウトして解像度・コントラストを確認し、さらにコピーするなどして、黒とび(全体が暗くて不明瞭な状態)などがないことをご確認ください。少し明るめの方が、印刷後見やすくなります。画像データは、できる限りJPEGでお願いします。図表には必ずタイトルをお付け下さい。

#### 5.2 原稿枚数

刷り上がりの1ページは、文字のみの場合、23字(全角)、42行の2段組みになります。400字原稿用紙では約5枚に相当します。図表を含む場合

は、適宜、換算して下さい。原稿は下記の枚数を超えないように配慮して下さい。

(1)	研究論文	刷り上がり	8頁
(2)	ショートペーパー	刷り上がり	4頁
(3)	研究報告	刷り上がり	6頁
(4)	技術報告	刷り上がり	4頁
(5)	資料	刷り上がり	6頁
(6)	解説	刷り上がり	8頁
(7)	意見	刷り上がり	2頁
(8)	報告	刷り上がり	4頁
(9)	情報	刷り上がり	1頁
(10)	特集	適宜(内容による)	
(11)	連載		
(12)	その他		

### 5.3 文体、文章

- (1) 文体は「である」体を用いて下さい。
- (2) 文章はできるだけ常用漢字、新かなづかいを用い、慣用の学術用語を用いて下さい。専門知識を持たない人にも理解できるよう配慮して下さい。

### 5.4 表紙

原稿には、原稿の種類、表題名、著者名、所属、連絡先を明記した表紙をつけて下さい。前記 2.1～2.6 の種類に該当する原稿には、5語以内の見出し語(キーワード)を記入して下さい。また、“研究論文”、“ショートペーパー”、“研究報告”については、英文の表題名、著者名、所属、連絡先、見出し語を記入して下さい。

### 5.5 見出し

本文の「章」に相当する大きい見出しは順次 1, 2, … のように、「節」の部分に相当する見出しはそれぞれ 1.1, 1.2 … のように、「項」の部分に相当する見出しは 1.1.1, 1.1.2 … のようにして下さい。

なお、見出しは行の端から書き出し、本文は行を変え、一まず空けて書き出すようにして下さい。さらに小さい見出しが必要な場合は順に(1), (1) のようにして下さい。

### 5.6 参考文献

参考文献は、本文中の該当場所の右肩に下記の形で文献番号を記入し、本文の後に文献リストをつけて下さい。

(例・・・鈴木ら<sup>1)</sup>によると、・・・)

文献の書き方は、次のようにして下さい。

#### (1) 雑誌の場合

著者名:表題名, 雑誌名, 巻(号), 最初-最後の頁, 発行年

1) 利業工人:障害者の移動機器・システム, リハ工学, 8(10), 71-75, 1990

2) Rehatech A. B. :Human Knee Prosthetics, Bio-Prosth., 1(1), 100-110, 1989

(2) 単行本で単独(共同)執筆の場合

著者名:書名, 版数, 最初-最後の頁, 出版社, 発行年  
3) X. ヲハウス(工学太郎・訳):福祉ロボットと人工知能, 1版, 123-125, 福祉工業新聞社, 1999

4) Icart H. B. :The Super Wheelchair, 1st, 77-88, RESNA, 1992

(3) 単行本で分担執筆の場合

著者名:章名, 編集者名(編), 書名, 版数, 最初-最後の頁, 出版社, 発行年

5) 自立志郎・他:ヒューマン・コミュニケーション, 愛賀大・他(編), 日常生活活動-評価と訓練の実際, 5版, 104-123, QOL 出版, 1985

### 5.7 資料および図表の引用

他者の著作権に帰属する資料および図表を引用するときは著者が複製権および公衆送信権の利用許可申請手続きを行って下さい。

### 6. 原稿の提出

原稿は、編集事務局宛にお送り下さい(送付先 E-mail:journal@resja.or.jp)。

電子メール添付をお勧めしますが、電子記録媒体(CD-R/RW, DVD-R/RW, MO, FD)の郵送でも結構です(郵送先住所は、本誌奥付をご参照下さい)。データは、使用ソフトで作成した原稿と、レイアウトの完成見本としてPDF形式、テキスト形式の3種類をお送りください。ファイル名に著者名を付け、メール件名に「リハ工協会誌原稿」としてメールでお送りください。

電子記録媒体の場合、ラベルに著者名、表題を明記してください。

### 7. 掲載料

原著論文(研究論文、ショートペーパー、研究報告)の掲載につきましては、刷り上り1ページあたり5,000円の掲載料をいただきます。この掲載料には、別刷り20冊の料金を含みます。

### 8. その他

本誌は、障害者等への情報保障のために電子化したものを配布しております。

また、協会誌は本協会または本協会より委託を受けた機関によって電子公開(電子出版)することもあります。